

保護者様

大津市立真野小学校
校長 三宅 弘令和7年度全国学力・学習状況調査分析結果
「我が校の強み弱み分析・評価シート」について

平素は、本校教育活動にご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本年度実施の全国学力・学習状況調査の分析結果を「我が校の強み弱み分析・評価シート」としてまとめましたのでお知らせいたします。

今後、結果を踏まえ、学力向上に向けて指導の改善、対策に取り組んでまいりますので、いつそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

【令和7年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立真野小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1. 真野小の児童の状況分析 《強み…○・弱み…■》

【国語】

- (思考力・判断力・表現力等) 図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかについての設問において、平均正答率が 84.1%であり、全国平均を 2.3%、県平均を 3.4%上回った。
- (知識及び技能) 当情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかについての設問において、平均正答率が 49.3%であり、全国平均を 13.8%、県平均を 12.1%下回った。

【算数】

- (図形) 台形の意味や性質について理解しているかどうかについての設問において、平均正答率が 52.2%であり、全国平均を 2%、県平均を 1.1%上回った。
- (思考・判断・表現) 除伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかについての設問において平均正答率が 29.0%であり、全国平均を 19.4%、県平均を 16.7%下回り、課題が見られる結果となった。

【理科】

- (思考・判断・表現) 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予測し、表現することができるかどうかについての設問において、平均正答率が 73.9%であり、全国平均を 14.1%、県平均を 14.7%上回った。
- (知識・技能) ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかについての設問において平均正答率が 47.8%であり、全国平均を 22.9%、県平均を 21.3%下回り、課題が見られる結果となった。

【児童質問紙】

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」「友達関係に満足していますか」という質問に対して、肯定的な回答した児童の割合は、全国、県より上回った。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度と比較すると増加しており、目標値を達成している。
- 「国語・算数・理科の勉強は好きですか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度と比較すると増加した。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度と比較すると増加した。
- 「国語・算数の勉強は得意ですか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県と比較すると下回った。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県と比較すると下回った。
- 「授業の中でP C・タブレットなどの I C T 機器の活用」に関する質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、全国、県と比較すると大きく下回った。

2. 指導の充実に向けて

◇授業のユニバーサルデザイン化に学校全体で推進する。

- ・「焦点化・視覚化・共有化」の3視点を意識し、子どもが「できる」「分かる」を実感できる授業づくりに取り組む。今年度は特に「共有化」に焦点をあて、自分の考えや思いを仲間に伝えたり、聞いたりする機会を効果的に学習の中に取り入れられるよう取組を推進していく。
- ・子どもが意欲的に取り組むことができる授業、学級の仲間と考えを共有する良さを感じられる授業の中で「各教科の学習が楽しい」と思うことができる子どもを増やしていく。
- ・タブレット等の I C T 機器の効果的な活用について教員間の研修を行い、総合的な学習の時間の学習等で、 I C T 機器をより効果的に活用できる子どもを育てる。

◇学校教育目標「自分が好き 人が好き 真野が好き」と言える子どもの育成を常に意識し、教育活動を展開する。

- ・行事や日々の学習に取り組む目的を明確にする。目標に向かって取り組む過程で自己肯定感や自己有用感を高める。
- ・夢プロジェクトや各教科の学習において、地域の方とふれ合う機会を増やすことで地域への興味関心を高め、真野の地域に貢献したいと思うことができる子どもを育てる。

◇基礎基本の定着を図る。

- ・まのっ子タイム等で、基礎・基本の確実な定着につながる学習を進めていくことで「各教科の学習が得意だ」と言える子どもを増やしていく。
- ・ふりかえりの時間をとり、めあてに対して自分の考えを書くことでふりかえる力を伸ばす。